

富山県立中央病院整形外科 専門研修プログラム

〒930-8550富山県富山市西長江2-2-78

富山県立中央病院整形外科

中村琢哉（担当: 丸箸兆延）

<http://www.tch.pref.toyama.jp/>

Tel: 076-424-1531

Fax: 076-422-0667

Email: takuyan@tch.pref.toyama.jp

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 富山県立中央病院整形外科専門研修プログラムの目標
3. 富山県立中央病院整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 基本方針, 研修計画, 研修方法
5. 研修スケジュール
6. 専門研修プログラムの施設概要・施設紹介
7. 専門研修プログラムを支える体制
8. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門研修の理念

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門研修の使命

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。また整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2.富山県立中央病院整形外科 専門研修プログラムの目標

プロフェッショナリズムの醸成

医師は、公益性、道徳性、専門性が強く求められる専門職です。富山県立中央病院整形外科では到達目標を「**医学医療は最先端を、教育に関しては未来の整形外科を担う卓越したプロフェッショナルとしての整形外科医師**」としています。富山県立中央病院整形外科では、北陸地域の整形外科医療を支えてきたその経験と実績により洗練された研修内容を提供します。

1

コミュニケーター

患者医師関係を構築し、チーム医療の一員となる。

2

チームリーダー

信頼される医師となり、チーム医療を組織、管理し、指導する。

3

生涯学習

臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得する。

4

社会的倫理

専門職としての責任、モラル、価値観を身に付ける。

5

指導者・教育者

後輩医師の指導や教育を通して知識の整理、指導力を身に付ける。

3.富山県立中央病院整形外科 専門研修プログラムの特徴

豊富な臨床経験

整形外科は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえたわが国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。

現在、富山県立中央病院整形外科には、**脊椎、四肢関節、スポーツ医学、上肢・手外科、リハビリテーション**などの診療・研究グループがあります。連携施設は、救急医療・外傷、脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった約40におよぶ大学、施設、病院があり、機能的なローテーションにより、**プライマリケアから最先端の臨床・研究まで**を学ぶことができます。また国内出向も含め都市圏にも複数の関連病院を有しており、北陸の3県立病院を含む大病院から専門領域に特化した複数の病院まで様々な施設での研修が可能で、**専門研修プログラムにおいて必要とされる年間新患数500例、年間手術症例40症例をはるかに上回る経験**が可能であり、またすべての整形外科疾患を偏りなく経験することができます。

整形外科医の病院内での貢献度は高く、大小かかわらず、どの施設でも整形外科医の需要は高い状態が続いています。このため将来的に整形外科のgeneralist, specialistとなる上で、北陸での主要病院での勤務を検討されている方には大きなアドバンテージとなります。



若手が最前線で
活躍できる!

3.富山県立中央病院整形外科 専門研修プログラムの特徴

熱意に溢れた指導医

整形外科は、**診断から治療まで一貫して行う**ことができるのも魅力の一つです。当教室では関連病院も含めて熱意に溢れた指導医のもと、**若手医師の時期から骨折外傷などの手術治療を積極的に行って頂く方針**で、その後専門性の高い手技を身に着けていきます。外傷の治療は整形外科医としての基本となりますが、この分野ひとつをとっても比較的簡単なものから難しいものまであり、非常に奥深いです。また専門性・難易度の高いものに関しても上級医のアドバイスを得ながら治療を進めていきます。実際の現場を体験するとわかりますが、交通事故等の救急外傷はかなりの部分を整形外科領域がカバーしています。それは同時に忙しいということを意味しますが、**若いうちに多くの経験を積む**ことが技術習得の近道となります。富山県立中央病院整形外科での専門研修プログラム修了後には、整形外科generalistとして外来や救急でどんな患者さんが来ても怖くなくなります。



3. 金沢大学整形外科 専門研修プログラムの特徴

充実した**臨床研究**

富山県立中央病院整形外科は、出身大学や学閥、卒業年度に左右されず評価されます。この風通しのいい環境が、**日々の臨床での疑問点を気軽にdiscussion**でき、新たな臨床研究の土台となっています。医学は日々進歩しています。症例報告やケースコントロールスタディといった臨床研究を通して、**研究テーマの立案、遂行、科学的なアプローチ、プレゼンテーションスキル**について教育します。また、適切な文献引用や統計学的解析など論文作成の基礎、倫理的配慮、個人情報管理など、**研究に必要な基本的な能力**を培っていきます。この経験を若いうちから積み重ねることで、基礎研究への扉が開け、新しい医学的発見や治療法の開発へと発展していきます。

富山県立中央病院整形外科では、研究を通じて学ぶ、「**医学を科学的に捉え新しいアプローチを探索する**」ことが、臨床医としての資質にも大いにプラスになる要素だと考えています。



明るく、楽しく、元気よく！

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.1 基本方針

専攻医および指導医マニュアルに関しては、
整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料
(日本整形外科学会 ホームページ)
<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>を参照。

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、金沢大学附属病院(基幹施設)および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会 や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.2 研修計画

整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

1 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

2 経験目標

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を富山県立中央病院及び連携施設で経験することができます。

3 各施設による症例検討会

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.2 研修計画

4 リサーチマインドの養成

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表する機会があります。学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。研究指導は各施設の指導医が行います。

5 コアコンピテンシーの研修

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得させます。金沢大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

6 地域医療に関する研修

本プログラムの研修施設群は石川・富山・福井県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。整形外科診療や病診連携を経験することを目的に、すべての専攻医は高機能中核病院だけでなく地域中核研修病院に6ヵ月以上勤務します。

7 サブスペシャルティ領域

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの金沢大学付属附属および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれており、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.3 研修およびプログラムの評価計画

1 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヶ月に1回行い、専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた金沢大学附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

2 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。富山県立中央病院整形外科に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。3月に専攻医 4年次の修了判定委員会を行います。また必要時に臨時委員会を開催します。専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、富山県立中央病院整形外科に報告します。

3 FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。また指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

4 専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.4 専攻医の就業環境の整備機能

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止, 中断, プログラムの移動, プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。



「整形外科に興味はあるけど、
いろいろと不安」と悩む女医さん。

心配しなくても大丈夫です！

4.基本方針,研修計画, 研修方法

4.6 修了要件

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- ④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- ⑤ 1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。以上1~5の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5.研修スケジュール

北陸の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。基幹病院のスケジュール、それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画と専門研修指導医一覧を下表に示します。



富山県立中央病院整形外科週間予定表

	朝	午前	午後
月	カンファランス	手術もしくは外来	手術,
火	カンファランス 抄読会	手術もしくは外来	手術 脊椎外来、 股関節外来、ス ポーツ外来、
水	カンファランス	外来	手術
木	カンファランス	総回診 手術もしくは外来	手術 手の外科外来
金	カンファランス	手術もしくは外来	手術

No guts, no glory!

5.研修スケジュール

専門研修プログラムの選択コース

	1(3)年目		2(4)年目		3(5)年目		4(6)年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
A 実践/リサーチ重視型（定員 1）	Ⅰ 群： 富山県立中央病院		Ⅱ 群：一般/地域中核研修病院		Ⅰ 群：高機能中核病院		大学病院	
B 地域/実践重視型（定員 1）	大学病院	Ⅰ 群： 富山県立中央病院		Ⅱ 群：一般/地域中核研修病院		Ⅰ 群：高機能中核病院		

基幹病院：富山県立中央病院附属病院

学術的な研修やそれぞれのサブスペシャリティーに特化した研修が可能になります。

大学病院：金沢大学附属病院

大学病院では学術的な研修やそれぞれのサブスペシャリティーに特化した研修が可能になります。

I 群：高機能中核病院群 (11施設)

比較的稀な症例、大きな手術を必要とする症例、合併症の多い症例の研修や年間1000件以上の整形外科手術を行っている施設での研修が可能になります。

＜I 群に所属する各病院＞

石川県立中央病院、福井県立病院、金沢医療センター、済生会金沢病院、富山市民病院、厚生連高岡病院、福井県済生会病院、市立砺波総合病院、福井総合病院、日本赤十字社医療センター（都市部）

II 群：一般/地域中核病院群 (28施設)

外傷および各研修施設に特色のある専門分野の研修が可能になります。

＜II群に所属する各病院＞

金沢市立病院、金沢赤十字病院、浅ノ川総合病院、JCHO金沢病院、公立松任石川中央病院、小松市民病院、やわたメディカルセンター、加賀市医療センター、芳珠記念病院、公立能登総合病院、恵寿総合病院、KKR北陸病院、木島病院、市立輪島病院、珠洲市総合病院、公立羽咋病院、富山県済生会富山病院、厚生連滑川病院、射水市民病院、富山西総合病院、富山県済生会高岡病院、かみいち総合病院、公立南砺中央病院、市立敦賀病院、JCHO福井勝山総合病院、春江病院、横浜栄共済病院（都市部）、上越総合病院、舞鶴共済病院

III 群：小児整形研修病院群 (3施設)

小児整形外科や専門分野に特化した研修が可能になります。

金沢こども医療福祉センター、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、福井こども療育センター

（本プログラムのローテーション、研修可能分野、取得単位の例は新患数、手術数の変動、指導医の異動等に伴い変更となる場合があります。）

5.研修スケジュール

専門研修プログラムのモデルコース

早く手術がうまくなりたいBさん

(当面の目標: 早く一人前になりたいが、いずれ学位も!)

1年目	初期臨床研修
2年目	初期臨床研修
祝! 入局 (専門医プログラム 開始)	
3年目	T県の大規模中核病院
4年目	T県の地域中核病院
5年目	I県の大規模中核病院
6年目	大学病院(大学院: 主に臨床)
祝! 専門医取得 (専門医プログラム 終了)	
7年目	大学病院(大学院: 主に基礎研究)
8年目	
9年目	金沢市内か近傍の病院(大学院)
10年目	I県の大規模中核病院

外科系に興味はあるものの卒業時には具体的な進路は決めかねていたBさん。初期研修を行った地元の中核病院で整形外科の面白さを実感し、金沢大学の専門医プログラムを選択しました。3年目から5年目は地域の病院で数多くの手術を執刀し、5年目にはほとんどの外傷手術を任されるようになりました。6年目は大学で最新の治療やリサーチマインドを学びました。

専門医を取得後、プログラム期間で興味を持った関節外科を極めたくなったBさんは大学院に入学しました。大学病院で2年間、近くの関連病院で1年間、臨床診療の傍ら基礎研究に従事し、9年目に学位を取得しました。

学位取得後は、関連の大病院で関節外科専門医として診療に奮闘しながら、学会活動も続けています。

5.研修スケジュール

専門研修プログラムのモデルコース

大学院での研究よりも地域貢献したいCさん

(当面の目標:地元の病院で勤務し、いずれ開業!)

1年目	初期臨床研修	
2年目	初期臨床研修	
祝！入局（専門医プログラム 開始）		
3年目	大学病院（臨床）	I県の小児施設
4年目	I県の大規模中核病院	
5年目	I県の地域中核病院	
6年目	F県の地域中核病院	
祝！専門医取得（専門医プログラム 終了）		
7年目		
8年目		
9年目	F県の大規模中核病院	
10年目		

地元大好きなCさん。大学は県外に出ましたが、初期研修は地元の中核病院で勤務しました。将来的には地元で開業も考えており、地元の関連病院を多く有する金沢大学の専門医プログラムを選択しました。

大学院進学には興味がないことや地元志向をプログラム責任者に伝え、希望に則したプログラムを用意してくれました。3年目の前半は大学病院で研修し、その後の3年半は地元も含めた中核病院で研修して見事専門医を取得しました。半年間の大学病院での研修では、臨床に必須なリサーチマインドと多くの信頼できる仲間や先輩を得ることができ、とても有意義な期間でした。

専門医取得後も地元の関連病院で診療を続けています。地域の患者さんに信頼され愛される整形外科医を目指して、日々頑張っています!

5.研修スケジュール

施設ごとの選研修可能分野

	修得可能な研修領域									
医療機関	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
金沢大学附属病院										
石川県立中央病院										
金沢医療センター										
JCHO金沢病院										
金沢赤十字病院										
石川県済生会金沢病院										
浅ノ川総合病院										
金沢市立病院										
KKR北陸病院										
公立松任石川中央病院										
小松市民病院										
やわたメディカルセンター										
加賀市医療センター										
芳珠記念病院										
公立能登総合病院										
恵寿総合病院										
珠洲市総合病院										
市立輪島病院										
木島病院										
金沢子ども医療福祉センター										
公立羽咋病院										
富山県立中央病院										
富山市民病院										
厚生連高岡病院										
富山県リハビリテーション病院										
富山県済生会富山病院										
厚生連滑川病院										
富山西総合病院										
市立砺波総合病院										
射水市民病院										
富山県済生会高岡病院										
かみいち総合病院										
公立南砺中央病院										
福井県立病院/子ども療育センター										
福井県済生会病院										
福井総合病院										
市立敦賀病院										
JCHO福井勝山総合病院										
春江病院										
上越総合病院										
舞鶴共済病院										
横浜栄共済病院										
日本赤十字社医療センター										

a: 脊椎・脊髄 b: 上肢・手 c: 下肢 d: 外傷 e: リウマチ
f: リハビリテーション g: スポーツ h: 地域医療 i: 小児 j: 腫瘍

6.専門研修施設概要・施設紹介

金沢大学付属病院整形外科

伝統の継承と独創性の高い最先端治療

金沢大学整形外科は、創設から60年以上が経過し、あらゆる分野で質の高い研究を行っており世界的にも有名な整形外科教室の一つです。そのため北陸にとどまらず、**全国から多数の患者さんが紹介受診**されます。その理由の一つとして、当教室は以前より**国際的に通用するオリジナリティーの高い治療の開発**を数多く行ってきたことにあります。先代の富田教授が確立された「腫瘍脊椎骨全摘術：Total en block spondylectomy」、当科独自に開発しT-sawを用いた数多くの新しい脊椎手術手技、そして土屋教授が確立された「仮骨延長術を用いた悪性骨腫瘍再建術」、「液体窒素処理骨意を用いた悪性骨腫瘍再建術」、「悪性骨腫瘍に対する新たな化学療法」は、極めて画期的な治療方法として国際的な評価を受けています。

国際色豊かな明るい教室

金沢大学整形外科は、多くの革新的な治療を開発し、世界に発信してきました。そのために、**海外の医師たちとの交流**も盛んです。教室には、これらの治療を学ぶために多くの外国の医師たちが勉強に訪れます。また、**国際学会に参加**する機会も多く、外国の医師とディスカッションするのもごく普通のことになってきます。2017年には国際患肢温存外科学会を金沢で開催しました。

さらに、**海外に留学する機会も豊富**にあります。それは、当科に対する評価が高いために、快く受け入れてくれる施設が多いためであります。

日本のみならず世界という
舞台で勝負をしたい志を持った
あなたには、最高の環境です！



6. 専門研修施設概要・施設紹介

I 群：高機能中核病院

福井県立病院

福井県立病院は福井市の中心部にあり、病床数961床（精神病床279床を含む）をもつ地域の中核病院です。福井県内唯一の三次救命救急センターを備えており、北米型ER方式を採用しているため、多発外傷は勿論、多くの外傷患者さんが24時間体制で搬送、受診されます。整形外科医は7名（うち専門医5名）在籍しており、外傷以外にも各領域に専門性の高い医師がいますので、多くの症例を経験することが出来ます。

国立病院機構 金沢医療センター



当院は、病床554床の金沢市の中核病院であり、整形外科常勤は5名で年間700例近い手術を行っています。救急搬送患者受け入れは金沢市内で最も多く、一通りの外傷疾患は経験することができます。手外科専門医、脊椎脊髄専門医が勤務しており、手外科、内視鏡を用いた

脊椎外科を始め、人工関節なども積極的に行っており、幅広い研修が可能となっています。また、金沢大学病院は徒歩圏内であり、市中病院とのカンファレンスも当院で毎月行っており、他病院との連携もスムーズに行うことができます。さらに、北陸随一の繁華街である片町、香林坊も近く、仕事だけでなくアフター5も充実した研修生活が楽しめます。

6.専門研修施設概要・施設紹介

I 群：高機能中核病院

富山市立富山市民病院

当院は富山市の中核病院の1つで地域医療の中心を担っております。当科では特に外傷、関節疾患の治療に力を入れており、年間手術件数は約850件です。主な手術は外傷を中心に、人工関節（THA、TKA）、膝周囲骨切り術(高位脛骨骨切り術、大腿骨遠位骨切り術)があります。外傷では骨盤・寛骨臼骨折は国際的にも指導的立場です。また、膝周囲骨切り術は国内有数の症例数です。

そして、当科では全国に先駆け、多職種によるチーム医療を導入し、受傷から24時間以内の安全な手術を目指して、病院全体で高齢者の骨折治療に取り組んでいます。また、当院では学会活動、教育にも力を入れており、外傷疾患、股関節疾患、膝周囲骨切り術、高齢者骨折の治療を高いレベルで学ぶことができます。

厚生連高岡病院

7名の整形外科医（うち1名はリハビリ専従）によって年間約850件の手術を行っており、その割合は、外傷 50%、脊椎 20%、人工関節（TKA & THA） 10%、肩 10%、その他 10%です。アピールポイントは3点あります。第1に、富山県西部唯一の3次救急病院であるため、数多くの外傷を経験でき手厚い指導の元での執刀機会が豊富なこと、第2に、人工関節センターを擁し、膝・肩・足・股関節それぞれに専門医がいること。第3に、脊椎に関して、診断学・手術道具・解剖に関する基礎的指導にはじまり、体位の取り方、除圧術、固定術と段階を踏んだ精緻な指導を享受できることです。当科で脊椎外科研修を終了した15名が、脊椎外科専門医として活躍しております。自らの手術技術をぐっと前に進めたい、そう思っている先生方にぴったりの研修施設です。多数の応募をお待ちしております。

6. 専門研修施設概要・施設紹介

I 群：高機能中核病院

福井県済生会病院

当院は病床数460床、診療科22科、職員数は約1,300名の急性期基幹病院です。「患者さんの立場で考える」を理念に掲げ、「済生の心」を実践する病院として質の高い医療・福祉を提供できるよう努めています。具体的には、チーム医療の推進、患者さんの立場で考えた新しいサービスによる理念の可視化、病院の質の継続的改善のシステムである済生会クオリティマネジメントシステム（SQM）の導入など、医療の質の向上に力を入れております。また職員の満足度の向上のため福利厚生にも力を入れております。3年に1回の海外旅行も企画されております。整形外科は専門医6名（うちリハビリ専従1名）、後期研修医1名の7名で、脊椎外科、関節外科、マイクロ・手外科、骨軟部腫瘍と専門性に特化した診療を推進しております。そして、救急センターの3名の専従医と連携を取りながら外傷にも力を入れております。

市立砺波総合病院



当院は、富山県西部の砺波医療圏にある病床514床の中核病院です。365日24時間体制で受け入れる救急の外傷・骨折症例の救急外来受診時からリハビリテーションまでの全ての経過を経験し、外傷、慢性疾患など幅広い疾患を経験することができます。変形性膝関節症・変形性股関節症に対する人工関節置換術、関節リウマチに対する生物学的製剤の治療、脊椎外科疾患に対する内視鏡・顕微鏡手術、また出来る限り侵襲をおさえた脊椎固定術、スポーツ整形、骨粗鬆症など多くの疾患の指導が受けられます。

砺波市は広大な砺波平野と豊かな自然に囲まれ、人と人が支えあいながら生きる温かい風土でチューリップが有名です。

6.専門研修施設概要・施設紹介

I 群：高機能中核病院

福井総合病院/福井総合クリニック



当院は、福井市の北東部に位置する、病床数315床の中核病院であり、全国的にも稀な病棟と外来が分離した形式をとっています。うち、整形外科の病床数は130床を優に超え、9名の整形外科医で、年間1200件を超える手術を行っております。外傷をはじめ、脊椎、人工関節（肩・股・膝）、内視鏡手術（肩・肘・股・膝・足）、リウマチ外科、スポーツ整形外科など、あらゆる分野で専門医による指導を受けることができます。患者数はとても多いですが、コメディカルが非常に協力的なおかげで、医師本来の仕事に集中することができます。また、国内外の学会参加・発表に対しても、積極的に支援する体制が整っています。

6. 専門研修施設概要・施設紹介

Ⅱ群：地域中核病院

浅ノ川総合病院



病院が金沢市の北部に位置することより、金沢北部及び河北地区の中核病院となるべく、周辺開業医と連携をとりながら、整形外科専門医3名で整形外科疾患全般にわたって偏ることなく治療にあたっている。患者さんの性別、年齢、家族、職業、社会的背景を考慮に入れて、十分なインフォームド・コンセントののちに手術治療を行っている。高齢者にみられる骨粗鬆症関連骨折においてもADLの早期回復を目指し、積極的に手術治療にあたっている。

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）金沢病院

当院は昭和22年金沢市大樋町に設立された社会保険鳴和総合病院がルーツとなっており、平成11年金沢社会保険病院と名称を変更し、平成26年から経営母体の変更に伴いJCHO金沢病院となりました。16診療科248床の急性期病院に加え、健康管理センター部門、老人保健施設、居宅支援センター、訪問看護ステーションを有し、最新医療から介護・福祉まで切れ目のない地域医療が行える体制が構築されています。

整形外科は、2人の常勤医で、高齢者の変性疾患および外傷治療を中心に診療を行っています。たんぼの真ん中の病院で夜間休日の急患は少ないですが、金沢駅に近く充実した研修生活を過ごすことができると思います。

特定医療法人社団 勝木会 やわたメディカルセンター

当院は、一般急性期7対1入院基本料、回復期リハビリテーション病棟を有しており、各学会の研修施設の認定を受けています。全診療科が協力して、急性期から回復期、在宅医療まで、地域の医療機関と連携し、多職種が協働して総合的な地域医療サービスの充実に取り組んでいます。特に予防医学を積極的に推し進め、一般的な治療のみならず、クリニックや健康増進施設と連携し、退院後の行動変容までを治療範囲ととらえています。

整形外科は、常勤医7名の体制で、内視鏡を用いたスポーツ外傷や脊椎外科、人工関節置換や骨切り術などの関節外科を中心に、年間1200件の手術を行っています。リハビリテーション科（常勤医3名）と連携した一貫した治療を充実した体制の下で行っています。

6. 専門研修施設概要・施設紹介

Ⅱ群：地域中核病院

芳珠記念病院



当院は金沢市から車で30分程度のところに位置する許可病床数320床のケアミックス型病院です。1983年の開設以来、地域医療を支える総合病院として、高度急性期から回復期のリハビリまで、多職種が協働して診療にあたっています。整形外科医の常勤は2名で、外傷から関節・脊椎を主に扱い、脊椎内視鏡手術（MED, MEL, CMEL）に積極的に取り組んでいます。夜間休日の急患は少なく、研修医のQOLはいい病院です。

恵寿総合病院

金沢大学医学部附属病院の連携病院として臨床研修医を受け入れる体勢をとっています。高齢者の外傷、変性疾患の症例が多いのですが、手術療法、保存療法のどちらにも対応しています。専門医・指導医が3名おり、専門範囲が異なりますので、それぞれの分野で専門性の高い医療を行っています。地域の拠点病院での臨床研修が可能です。地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟もあり、受傷から在宅復帰までの全てのプロセスの研修が可能です。

七尾は港町ですので、特にお寿司がリーズナブルでお勧めです。

KKR北陸病院

運動器疾患は、「不適切な動作を基板として発症する」というコンセプトのもと、局所の治療のみならず、身体全体の動作評価や修正プログラムを施行し、近隣の高齢者からプロ選手まで必要なケアを行っています。基本は保存治療ですが、必要な場合は肩、肘、膝、足・足関節を中心に、鏡視下、直視下手術を適切に選択して治療を行い、よりよい生活復帰、スポーツ復帰をめざし、最後まで面倒をみるのが当院の特徴です。

6. 専門研修施設概要・施設紹介

Ⅱ群：地域中核病院

富山県済生会富山病院

常勤4人で平日の午前3人が外来に出て、1人が手術か病棟回診、午後は4人で手術を行っています。250床の割には年間650件と手術は多く、脊椎手術200件(内視鏡が多い)、人工関節100件以上(膝が多い)がメインですが、富山医療圏の2次救急輪番病院のため、骨折など外傷も含めて比較的バランスよく色々な症例が経験できます。輪番日でない日は救急患者は来ないため、オンとオフがはっきりしていて、研修医のQOLはいい病院と思います。

富山県厚生連滑川病院

当院が立地する滑川市は、富山県の東部新川地区に位置し、春はホタルイカ漁、また雄大な立山の景観が臨める自然豊かな町です。公的病院では数少ない整形外科医が院長を務める病院であり、常勤医総数25名のうち5名を占める整形外科医は全員が専門医です。地域に根差した中規模病院で、医師だけでなくスタッフとの連携も非常にとりやすい環境です。1例1例を大切に扱うことをモットーに、最も得意分野とする外傷の他、脊椎外科、四肢関節外科、手の外科、関節リウマチなどの治療、また学会活動も積極的に行っています。

射水市民病院



平成29年3月に新診療棟（外来部門）が改修され、新しくなりました。病院内の常勤医は18人と少ないのですが、医師、ナース、コメディカルの協力体制はしっかりできていて、仕事しやすいと思います。

整形外科の診療は外傷が75%で、残りが変性疾患です。数は多くありませんが、脊椎疾患、関節疾患にも対応し、地域医療に貢献しています。

富山西総合病院

富山市南部にある中規模病院です。医師総数30名、整形外科医2名で地域医療を中心に急性期から回復期、慢性期まで地域に根差した医療機関です。外傷以外にも人工膝関節手術、関節リウマチ、骨粗鬆症リエゾンサービスなどにも力を入れております。

6.専門研修施設概要・施設紹介

Ⅱ群：地域中核病院

公立南砺中央病院

開設15年の新しく綺麗な病院です。金沢大学から車で30分と立地も良く、金沢からの通勤も可能です。周囲は山に囲まれており、ウィンタースポーツ好きにもお勧めです。

手術は外傷だけにとどまらず、肩関節、股関節、膝関節、足関節、脊椎の変性疾患も積極的に行っています。早期から超音波（エコー）も導入されています。当直は週に1回程度で、ほとんどが整形外科の患者です。スタッフもみんな優しく、仕事がしやすい環境の整った病院です。

JCHO福井勝山総合病院



当院は、勝山市と大野市を含めた奥越医療圏（6万5000人）唯一の公的病院で、病床数は199床、うち41床を回復期リハビリ病棟としています。整形外科は常勤2名で平均40名ほどの入院患者を抱え、毎日午前外来、午後手術で頑張っています。

手術は年間250～300件ほどで、外傷を中心に、人工関節・脊椎・手の外科など幅広く行っています。

コメディカルは医師に協力的であり、他科との連携も良好であるため、非常に働きやすい環境です。また、研修医であっても常勤医扱いとなり、給与面で手厚い保証が得られ、また即戦力として診療・手術に参加していただくため、整形外科臨床医としてかなりの経験を積むことが可能です。

美味しいおろしそば・恐竜博物館・スキージャム勝山・平泉寺など名物・名所の豊富な勝山で研修しませんか？

上越総合病院

新潟県上越地区（人口約20万人）の中核病院です。外傷、脊椎疾患、関節疾患など豊富な症例があり、多くの手術経験が可能です。他科との連携が緊密で働きやすい環境です。金沢から新幹線で1時間とアクセスがよく、給与や住居など待遇面も充実しています。

6.専門研修施設概要・施設紹介

Ⅲ群：小児整形研修病院

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター



当院は、202床の県立の社会福祉法人が運営する施設です。リハビリ病棟は100床の回復期リハビリを行っています。脳卒中や頸部骨折、外傷、脊髄損傷等に対し365リハを7単位以上実施しています。また、一般病棟50床は神経難病、整形外科疾患や外傷（年間260件の手術）

を取り扱っています。52床は小児の四肢障害（小児整形外科の手術30件）、重症心身障害児や児童精神分野の子供たちが利用しています。障害をキーワードに幼児から高齢者までライフスタイルに応じて幅広く治療を行っていることから一度は経験すべき、貴重な施設と自負しています。

福井県こども療育センター

福井県こども療育センターは福井県立病院に併設する心身障害児のための総合療育機関であり、整形外科医は2名在籍しています。脳性麻痺をはじめ、脊柱側弯症や内反足、先天性股関節脱臼などの小児整形外科疾患の診断・治療を行っており、手術治療が必要な場合には福井県立病院で手術を行っています。

7. 専門研修プログラムを支える体制

専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である富山県立中央病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。上記目的達成のために金沢大学付属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会および、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

基幹施設である富山県立中央病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。富山県立中央病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

7. 専門研修プログラムを支える体制

プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 富山県立中央病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。富山県立中央病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

7. 専門研修プログラムを支える体制

プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である富山県立中央病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

労働環境、労働安全、勤務条件

富山県立中央病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

8.募集人数と応募方法 病院見学の申し込みについて

専攻医受入数と募集方法

【専攻医受入数】 各年次 2名

【応募期間】 8月末～11月30日

【応募方法】 応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

富山県立中央病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

病院HP：[http:// www.tch.pref.toyama.jp/](http://www.tch.pref.toyama.jp/)

臨床研修プログラムHP：

<http://www.tch.pref.toyama.jp/rinsyo/index.html>

- 1 申請書(ダウンロード)
- 2 履歴書(ダウンロード)
- 3 医師免許証(コピー)
- 4 医師臨床研修修了登録証(コピー)
- 5 健康診断書

【問い合わせ先】 

〒930-8550 富山県富山市西長江2-2-78

富山県立中央病院整形外科

担当: 中村 琢哉、丸箸 兆延 (研修プログラム統括責任者)

Tel: 076-424-1531

Fax: 076-422-0667

Email: takuyan@tch.pref.toyama.jp